| | |
|---|---|
| 事例No. | 1657 |
| 公表年度 | R4 |
| 団体の属性 | 複数団体 |
| 団体名 | 熊本県荒尾市　・福岡県大牟田市 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 公営企業 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・（公営企業）水道事業<br>・公共施設の集約化等<br>・（行政改革）業務の効率化 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 広域化等 |

事例内容・タイトル

熊本県荒尾市と福岡県大牟田市の水道施設共同化

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

# 【熊本県荒尾市・福岡県大牟田市】
# 熊本県荒尾市と福岡県大牟田市の水道施設共同化

広域化等　水道事業

熊本県荒尾市企業局総務課

## 取組の概要

新たな水源を効率的に確保するため、DBOと第三者委託を組み合わせた方法を導入し、荒尾市と大牟田市で県境を越えて浄水場の共同化を行った。

**◆総事業費**　建設工事費3,697,050千円、 維持管理業務委託料4,293,450千円

**◆背景**

- 大牟田市、荒尾市は共に三池炭鉱の街として発展し、市水に先駆けて炭鉱専用水道（社水）が普及し、炭鉱社宅周辺の一般家庭まで給水している状況があったことから、市水との水道一元化という共通の課題を抱えていた。
- 両市共に水道の一元化を進める上での給水量増加及び既存水源である地下水の水質変化に伴う取水抑制が必要となったことから、水源不足が予想され、新たな水源の確保が必要不可欠となっていた。
- これらの課題を解決するため、共通の課題解決に向けて両市で連携し、共同浄水場を建設することとした。

**◆具体的内容**

- 熊本県、国等と調整して、熊本県工業用水道事業の有する水利権の一部転用を受けることで、新規水利権を取得した。
- 民間の技術力や経験、ノウハウを活用するため、導入可能性調査により総合的に検証し、最も有効と考えられたDBO方式を採用することによって、共同浄水場の設計、建設、さらに長期（15年）の維持管理を一括発注にて行った。

**◆効果**

- 施設の共同設置及びDBO方式の導入により、建設に要する経費を削減した（共同設置：▲約7億円、DBO方式の導入： ▲約12億円）。

## 取組のポイント

- 水利権の一部転用を受けるため、県と協力しながら、厚生労働省、国土交通省、その他多くの機関との調整を実施した。
- 浄水場の建設前に圏域内の住民の理解を深めるため、住民公聴会を開催し、説明を行った。また、広報紙やホームページ等を活用し、啓発に努めた。

## 公営企業情報

- 行政区域内人口　50,622人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　57.37km²（令和4年1月1日時点）
- 給水人口　48,509人（令和3年度決算）

水の流れイメージ




## 取組のスケジュール

- 平成18年12月に導入可能性調査を開始し、平成21年7月に設計着手。平成22年3月工事着工。
- 平成24年4月から運用開始。

## 今後の展望

- 令和8年度に契約期間が完了するため、今後は次期契約について検討を行う。
- 引き続き荒尾市と大牟田市で、維持管理業務について共同で発注する見込。